

## 公開シンポジウムⅡ 教育と平和構築

The 69th Annual Conference of Japanese Educational Research Association

日本教育学会第69回大会



暴力-平和論とコンフリクト-平和論を統合した平和教育  
 ガルトゥング暴力論とトランセンド紛争転換理論を主軸にして

いとうたけひこ（和光大学）

## はじめに

本稿は、ガルトゥングの平和学（Galtung, 1996, 2000; ガルトゥング・藤田 2003）に基づいて、直接的暴力・構造的暴力・文化的暴力をふまえた「暴力-平和論」とガルトゥングの提唱する紛争転換理論であるトランセンド法に基づいた「コンフリクト-平和論」（いとう・杉田・井上, 2010）の2つの軸を基軸に据えた平和教育理論を構築する試みである。このような実践例として著者の和光大学における授業実践（平和心理学 A=暴力-平和論；平和心理学 B=コンフリクト-平和論）の他に、教員免許更新講習の中で実施された、ガルトゥングの平和学の理論から立案した平和教育ワークショップによって、教師が学校で直面するコンフリクト状況を転換していく力量を形成するための杉田の取り組み（いとう・杉田・井上, 2010）がある。これに先立ち、杉田・伊藤（2008）は、日本の平和心理学の歴史的展開を跡付けるなかで平和教育にとってガルトゥング理論に基づく平和心理学が有用であることを示した。

## 第1部 講習の内容

杉田は、2009年度の教員免許更新講習として幼稚園教員から高等学校の教員に対して「平和学からの教育再論：発達の援助者となるために」と題する講義とワークショップを実施した。

講習会は2009年8月22日午前9時半～午後4時半（50分のセッションを6回）に大東文化大学の板橋キャンパス（東京都）において行われた。ここで、今回の教員免許更新講習プログラムの概要を表1に示す。

表1 教員向け講習のプログラムの全容（いとう・杉田・井上, 2010）

セッション	テーマ	内容
(1)	暴力-平和論(1)	子ども青年と暴力・平和
(2)	暴力-平和論(2)	暴力の構造のエクササイズ:シエラレオネの場合
(3)	コンフリクト-平和論(1)	コンフリクトの構造
(4)	コンフリクト-平和論(2)	例題のエクササイズとトランセンド
(5)	平和学からの教育再論	ドイツ国際平和村と平和教育ゼミ
(6)	まとめと評価課題	アンケートと振り返り



## 第2部 プログラムの評価

【目的】第2部の研究目的は、コンフリクト転換を重視した教員免許更新講習による平和教育のプログラム評価を行うことである。

【方法】セッション(6)において与えられた課題を参加者33名に回答してもらい、一日の講座の締めくくりを行った。この一日のプログラムの評価は上記のように、各人に回答・感想文を提出してもらったことによっている。対象者の内訳は幼稚園1名、小学校14名、中学校8名、高等学校8名の各レベルの教員と、中学高校一貫校1名、教育委員会勤務1名の合計33名であった。問1-5の回答をテキストマイニングの手法により分析した。

【結果】問1-5までのうち、問4は「本日のSession全体を通じて考えたことをお書き下さい。」という講習の感想を求めたものであった。全体の感想文から、ポジティブとネガティブに評価された単語が抽出され、それらの単語との結びつきが示されるネットワーク分析を图示した(当日資料)。ガルトウングの理論による平和学は受講者にとって興味深く、そして新しく受け止められていることが明らかとなった。

【考察】参加者の感想は、おおむねポジティブであり、学ぶ意欲とコンフリクトをポジティブに転換・解決させていく意欲を引き出させるものであった。一日のセッションであっても平和理論に関する重要な内容は伝えられることも分かった。この教員免許更新講習は、ほとんどの参加者に肯定的・好意的に受け止められたことが明らかになった。すなわち各々の職場における教育現場での具体的なコンフリクトについて、講習の内容が応用できるものとして積極的・実践的に受け止められたといえるだろう。また、平和学について再認識する受講者も多く、たとえば問4の感想では「平和学というものをもっと違う意味でとらえていました。」と、受講者が講習を経て再認識を行っている様子がわかる。教員免許更新講習の制度に批判的な意見があったが、講習の内容については肯定的な回答で構成されていた。このように、受講者から得られた回答・感想文をテキストマイニングすることによって、参加者全員の全体的な傾向やプログラムについての感想がモニタリングできた。

## 第3部 総合的考察

1日、6時間の講習でも、ガルトウング平和学の真髄を伝授することができ、それを学校教育現場で応用しようとする態度形成の効果も確認できた。

学校現場を対象としたコンフリクト分析でも、ガルトウングの暴力論-平和論および、紛争転換理論すなわちトランセンド理論が、応用可能な有効なツールであるということが明らかになった。学校現場というメゾシステムにおけるコンフリクト分析と、トランセンド的な介入の有効性が示唆され、今後のさらなるプログラムの開発と実施が期待される。

【文献】○いとうたけひこ・杉田明宏・井上孝代(2010)「コンフリクト転換を重視した平和教育とその評価:ガルトウング平和理論を主軸にした教員免許更新教育」『トランセンド研究』, 第8巻(第2号), 9-28

○杉田明宏・伊藤武彦(2008)「日本における平和心理学の発展:心理科学研究会平和心理学部会20年の活動を焦点に」『心理科学』, 第28巻(第2号), 42-55.